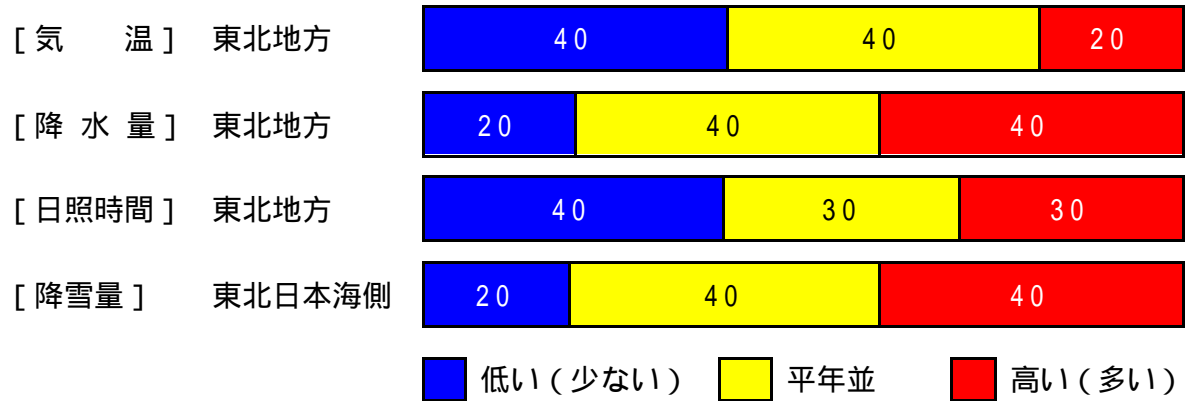


# 東北地方 1 か月予報の解説（予報期間：2 月 3 日～3 月 2 日）

平成 13 年 2 月 2 日 仙台管区气象台

## 1．向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率（％）



[ 気 温 ]: 東北地方は「平年並」か「低い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40％です。「高い」の可能性は 20％と小さい。

[ 降 水 量 ]: 東北地方は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40％です。「少ない」の確率は 20％と小さい。

[ 日照時間 ]: 東北地方は「少ない」の可能性が最も大きく、その確率は 40％です。「平年並」と「多い」の確率は、それぞれ 30％です。

[ 降 雪 量 ]: 東北日本海側は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40％です。「少ない」の可能性は 20％と小さい。

## 2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう 1 か月

東北地方は、概ね周期的に気圧の谷が通過するでしょう。期間の前半は低気圧の通過後、強い寒気が入る見込みです。東北地方は平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

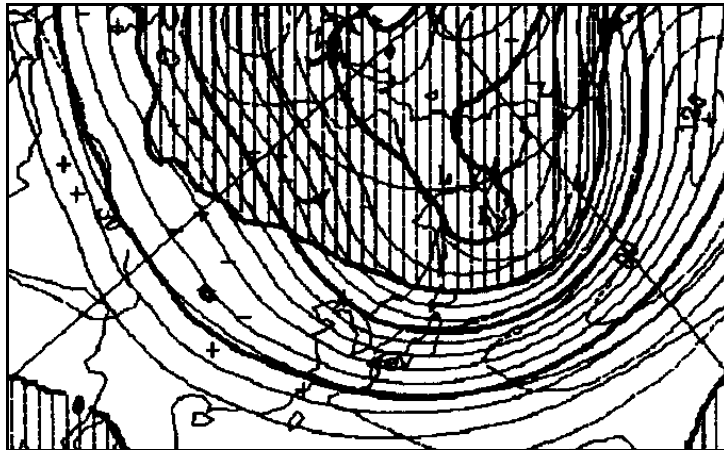
平均気温は平年並か低いでしょう。

向こう 28 日間の晴れ日数：東北日本海側約 7 日、東北太平洋側約 18 日

各予報期間の天候の特徴

- |                                   |                                                                                                                                                                                                           |
|-----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 週目……………<br>(2 月 3 日～2 月 9 日)    | 明後日(4 日)までは、強い冬型の気圧配置となり、東北日本海側や東北太平洋側の山沿いでは雪が降り、大荒れとなるところがあるでしょう。太平洋側では沿岸部を中心におおむね晴れる見込みです。その後は気圧の谷が周期的に通る、東北日本海側では曇りや雪の日が多く、東北太平洋側でも天気の崩れる日があるでしょう。<br>平均気温は平年並でしょう。<br>平年の晴れ日数：東北日本海側約 1 日、東北太平洋側約 5 日 |
| 2 週目……………<br>(2 月 10 日～2 月 16 日)  | 気圧の谷が周期的通過し、通過後は強い寒気が入り冬型の気圧配置となるでしょう。東北日本海側では曇りや雪の日が多く、東北太平洋側では天気が周期的に変わるでしょう。<br>平均気温は低いでしょう。<br>平年の晴れ日数：東北日本海側約 2 日、東北太平洋側約 5 日                                                                        |
| 3～4 週目……………<br>(2 月 17 日～3 月 2 日) | 冬型の気圧配置は長続きせず、天気が周期的に変わるでしょう。平年に比べて東北地方は晴れの日が少ないでしょう。<br>平均気温は平年並の見込みです。<br>平年の晴れ日数：東北日本海側約 4 日、東北太平洋側約 9 日                                                                                               |

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



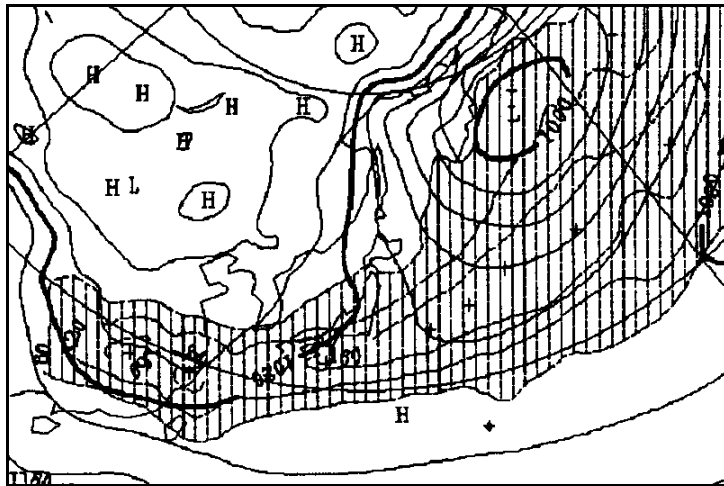
月平均の 500hPa 高度・偏差  
（等高線：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差）

・ 500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、北海道の北は負偏差、日本付近は太平洋に中心をもつ正偏差に覆われる。

日本付近の偏西風は東西流が卓越しており、天気は周期変化が基調となるが、北ほど寒気の影響を受けやすい。

週別（図略）では、2 週目に日本付近は負偏差に覆われ寒気が入りやすいが、西谷傾向であり低気圧の影響も受ける見込み。3～4 週目は日本付近が正偏差に変わる。

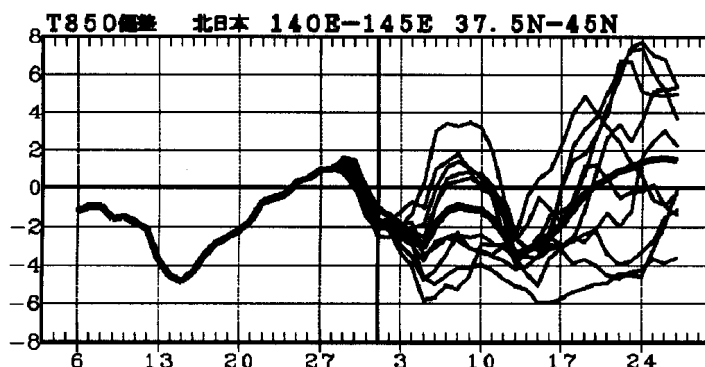


月平均の地上気圧と降水量  
（等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上）

・ 地上気圧と降水量

月平均で見ると、中国大陸に高気圧があり、ベーリング海では低気圧が発達して、日本付近は冬型の気圧配置となっている。日本付近は広く降水域に覆われ、日本南岸はまとまった降水域となっている。

週別（図略）でもおおむね冬型の気圧配置だが、2 週目以降、日本の南岸が低圧部となり、日本の南岸から東海上に降水域が予想され、南岸を通過する低気圧の影響を受けやすい。



北日本 850hPa の気温平年差の実況と予想

（縦軸：気温平年差（℃） 横軸：日付）

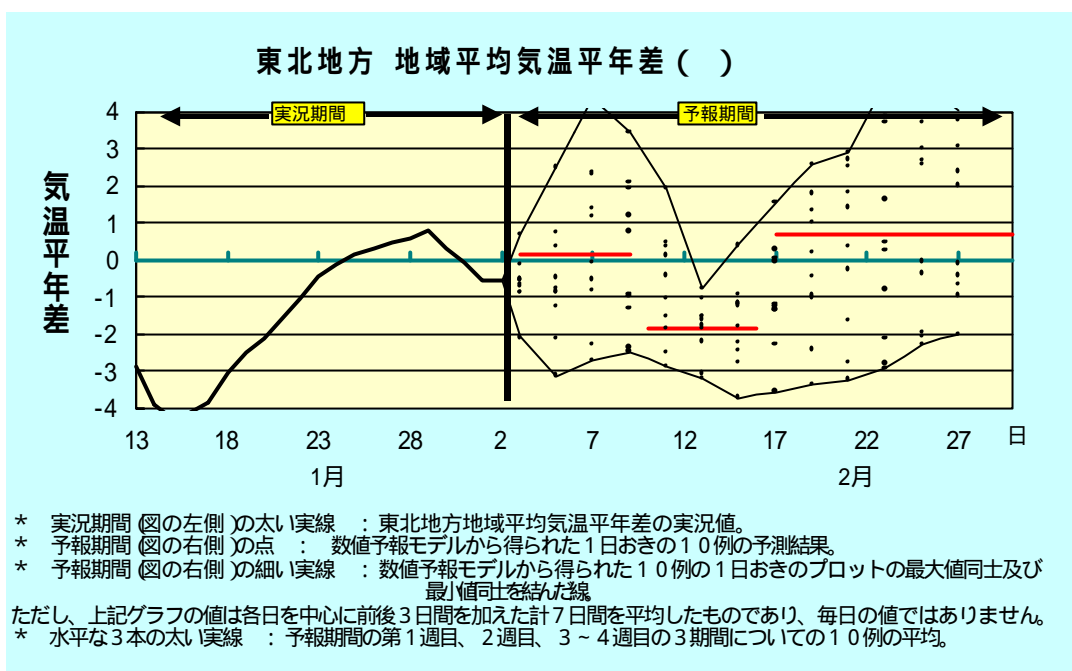
発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）の平均値

・ 北日本 850hPa 気温平年差の時系列

アンサンブルメンバーの平均は、1 週目から 2 週目は平年より低く、その後は平年並から平年より高くなる。ただし、1 週目からはばらつきが大きい。

### 3．東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

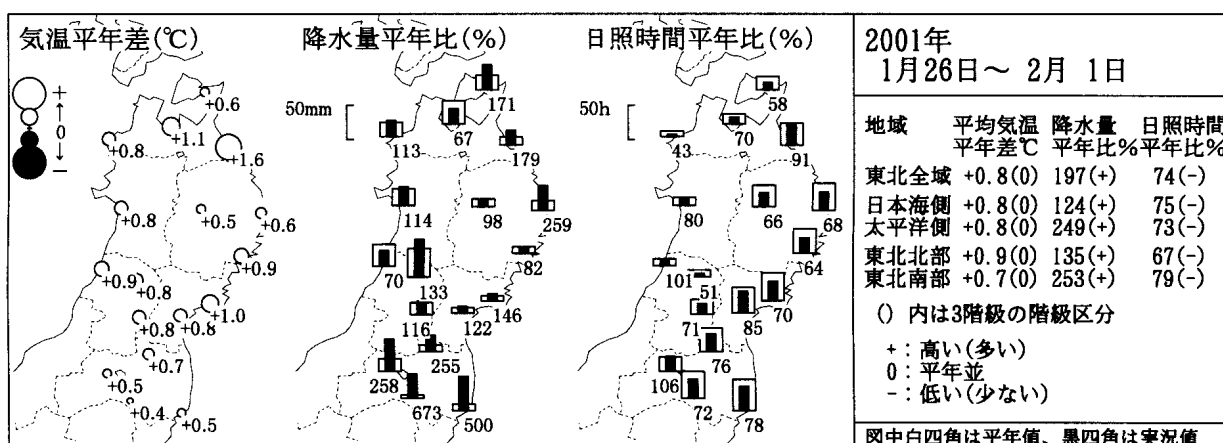
週別の気温は、1 週目「平年並」、2 週目「低い」、3～4 週目「平年並」を予測している。  
 なお、アンサンブルメンバーのばらつきは大きく、信頼度は小さい。



### 4．最近1週間(1月26日～2月1日)の天候の経過

低気圧が27日と2月1日に低気圧が通過し、東北地方は天気が崩れた。特に27日は、福島県で大雪となり、交通障害が発生した。27日の日降雪量は、若松 29cm、福島 20cm、仙台 8cm などだった。低気圧の通過後の28～30日は冬型の気圧配置となり、東北日本海側では雪または雨となったが、東北太平洋側では概ね晴れた。そのほかの日は高気圧に覆われ晴れの所が多かった。

平均気温は、東北地方で平年差+0.8 と高かった。降水量は、東北地方で平年比 197% と多かった。日照時間は、東北地方で平年比 74% と少なかった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)